

発行所 青山同窓会 新潟市関屋下川原町二 新潟高校内 印刷所 オリオン印刷機 0252-83-2151

あけましておめでとございませす

青山同窓会会長 鍵富清一郎



創立九十周年の式典並びに記念事業もみなさんのご協力のお蔭で盛大のうちに無事に終わりました。心から感謝申し上げます。同窓会、母校を愛するみなさんの力がみごとにあらわれて、本当にありがとございませす。改めてお礼を申し上げます。

追悼

わが青山同窓会の副会長、阿部藤策さんが死去された。昨年十一月二十四日午後五時入院先の川崎市京浜総合病院で多発性脳コウソクのため不帰の人となったもので、享年七十八歳だった。

十月二日の母校創立九十周年記念式典と祝賀会には、いつもと変わらぬ元気な姿を見せていたし、その直後第一回の発作に見舞われたあとでも少康を取り戻されたとのことで、近いうちに快気祝いということになるだろうと期待されていた矢先の想像外の訃報だった。



係者をはじめ多数の人々が別れを惜しみ、鍵富会長が弔辞をささげた。

阿部さんは青山二十八回生。旧制新潟高校を経て昭和三年

《記念式典挙行》

燦たりわれらが母校

—創立九十周年を祝う—

旧年十月二日、職員、生徒、父兄、同窓が体育館の一室に会し、創立九十周年記念式典が簡素な中にも厳粛に行なわれた。

学校長式辞をはじめ、君県知事、小林県教育委員長より、九十年の年輪の意義を考え、伝統ある母校の歴史に新たな一頁を加え、確固たる足跡を将来に伝えよ、という激励があった。生徒代表からは先輩

の意図したところを体し、現在私たちは、その歴史を作っている主人公なのです。私た

創立90周年記念



ちの考え方次第、行動次第で、ねばりませぬ。との挨拶があつて意義深い式典を閉じた。どんな形にでも自由になります。自由になるからこそ常により真剣に、より冷静であら

ねばりませぬ。との挨拶があつて意義深い式典を閉じた。どんな形にでも自由になります。自由になるからこそ常により真剣に、より冷静であら

東京青山同窓会総会

昭和57年11月19日

やあ、よつきたなあ——先輩お元気ですねえ——後輩

た活動を続けられた。阿部さんの同窓会副会長就任は昭和三十九年度からで、学校と同窓会双方の事情も気心もよく承知されていただけに、事に当って適切な助言をいただいた。居を川崎に移されたあと、役員会や総会には必ず出席されたことは、阿部さんの母校と同窓会への愛情と献身の一端であった。七十八歳とはいえ、頭脳も肉體もまだまだ若々しく見えた阿部さんだけに、この世を離れさせられるのは、早すぎたし、突然でもありすぎた。

有楽町ニュートーキョーにて開かれた、東京地区総会には二百二十余名の同窓生が集いました。30回卒から89回卒まで、76回の15名出席を筆頭に、各回平均5〜7名。おなじみのめぐりあい、新しいおちかづきの挨拶を交わしました。

ただご冥福を祈るのみである。

前会長34回山崎重三郎氏もお元氣な姿を見せ、本校から上杉雅之先生、岩田さんにご出席いただき交歓にごったがえしました。東京青山同窓会は三千八百名を超える名簿を持ち、総会

阿部藤策さん(副会長)のご逝去

幹事長 上村光司

制直江津高女の校長、以後村上、巻、長岡の各高校長を歴任のあと、三十六年四月、母校の校長として着任された。長い青山の歴史の中で、初め

たであろう。三十九年三月退任後は私立新潟明訓高校の校長、さらには新潟市の老人福祉センター「ことぶき荘」の所長など、その人柄を生かし

たであろう。三十九年三月退任後は私立新潟明訓高校の校長、さらには新潟市の老人福祉センター「ことぶき荘」の所長など、その人柄を生かし

たであろう。三十九年三月退任後は私立新潟明訓高校の校長、さらには新潟市の老人福祉センター「ことぶき荘」の所長など、その人柄を生かし

(役員名は二面へ)

記念祝賀会

五百二十余名集つ

定刻午後一時三十分、上村光司氏によって開会が宣せられ、実行委員長挨拶(鎌富委員長に代つて)学校長(のあと)田中邦正教育次長、上野新次中央高校長、石川健四郎元校長の三氏から祝辞をいただいた。三氏ともども母校の伝統が今なお力強く受けつがれている点を讃えられた。

稲月作之助PTA会長の乾杯の首頭で祝宴に入った。宴半ば、佐藤隆衆院議員、阿部藤策元校長のスピーチがあり、会は一段と盛り上がった。今回、立食形式から椅子席に改めたことは大成功で、交歓の談もはずみ、閉会後も立ち去り難き風情の同窓が多数おられた。

《同窓会》 57年総会開かる

青山同窓会の昭和57年度総会は、七月二十日(火曜)午後五時四十分から、いまやホームグラウンドとなつた「オークラホテル新潟」で開催された。集うもの約七五〇人。90周年の年を迎えますます意気、健康共に若々しい鎌富清一郎会長の挨拶で定刻開会。

56年度決算、57年度予算について、原案どおり承認。90周年記念事業募金にご協力を賜る旨を校内幹事(募金係)上杉雅之教諭(60回)より。六時から懇親会に入った。君知



90周年記念 音楽会を 聴いて...

鉄骨が丸見えの、およそ音楽をしようと楽しむにはふさわしくない広い体育館で、約千五百人の聴衆がシーンと美しい歌曲に耳を傾けました。

正直いって、大向こうを唸せる美声と音量(最もあの広い体育館にヴォリュームを求めるとは無理)の持ち主ではないかもしれません。山崎景子先生の音楽をこよなく愛する心と、温かい人柄が、クラシック音楽の中でも、最もよく知られ、親しみやすく、解りやすい曲とよくマッチして、又きまづた音楽会場で聴くのと別、とてもすばらしく、大変有意義だつたと思います。特にシューベルトの「野ばら」や「アヴェマリア」は先生の愛される曲のように単純な曲(単純なものほど音楽表現が

難かしい)を心から心へと歌われていたと思います。どんな高価なステレオ装置で最高の演奏をレコードでかけても、あれほど静かに、一心に聴いてくれたでしょうか。山崎先生も言っておられましたが、皆さんがあまり熱心に聴いて下さり、胸がキューンとなつて大変緊張なされた。書かせた感想文の中から主なものをつけてみると、「大変感激した」「是非こういう機会を又つくって欲しい」「声が響いて良かった」「一生けんめい舞台をやつてるのがよくわかつた」「ピアノがすごい。なんであんなに指が動くのか信じられない」等々、反響は大で、私自身、あらためて、生の音楽に勝る鑑賞はないのだということが解りました。少々残念だつたことは、もっとピアノソロをといて声が多く、せつかく我を積む重ね、自信を得ること

はヤマハ)ももう少し出番が欲しかったのではないのでしょうか。是非次の機会を期待したいものです。最後に、山崎先生は大変な勉強家でいらつして、この一月から又しばらく勉強のためウィーンに行かれるそうです。どうぞ今後の御発展と御活躍を心からお祈りして止みません。

63回 江口律子
(新潟高校音楽科講師)

『エベレスト登頂』の 石黒久氏(78回)母校 にて記念講演

本校在学中ふとした偶然から山岳部に入り、日大理工、現職の大成建設と生涯を歩みつつける一方、鵬翔山岳会に所属、持ち前の強気とそれを活かすにうまわる努力を重ねて、十年前の十月二十六日エベレストの頂上に立った。南壁登山隊、ポスト・モンスーン期の初の快挙であつた。十月九日、本校文化祭の体育館で後輩に「エベレストに賭けた青春」と題する90周年記念講演を行った。

一生には幾度かチャンスがめぐってくるが、その偶然を掴んだ場合、精神力と努力を積み重ね、自信を得ること

で、他人にも信頼され納得できる人生を送るのである。結び、聴衆を魅了した。終つて生々しい記録映画の止演があり、一同かたずをのみ、登頂の一瞬に酔いしれたことである。

募金へのご協力 ありがとうございました。

目標としました一千万円、おかげ様で、五百万円を越え、一千五百万円、総額で二千万円を越える奮附金をいただきました。別途会計収支報告書でお知らせしましたとおり、九十周年記念行事関係費用の残額、約千百万円につきましては、母校クラブ活動振興基金、新体育館設備等に支出の予定でございます。ここにあらためて紙上を借りまして、募金のご協力を厚くお礼申し上げます。

東京青山同窓会役員

- (昭和57年11月19日)
- 幹 役 職 氏 名
 - 43 副会長 市橋敏雄
 - 40 会 長 南字正時
 - 44 副会長 市橋敏雄
 - 51 浅見信夫



- 43 幹事長 田中一郎
- 49 副幹事長 内田文雄
- 52 栗原一也
- 60 金山常吉
- 41 常任幹事(会計幹事) 相田正夫
- 44 常任幹事 垣原高志
- 56 三崎正一
- 59 牧 泰彦
- 61 中村正春
- 65 佐藤武行
- 67 片桐靖忠
- 68 常任幹事(事務局長) 渡辺泰彦
- 70 常任幹事(事務局長補) 池野隆彦
- 74 常任幹事(事務局長補) 上田久則
- 75 常任幹事 石塚英男
- 78 大田秀樹
- 85 常任幹事(事務局長補) 長谷川やい
- 87 常任幹事 清水忠明
- 90 田中典子
- 43 会計監査 梅田悦次
- 50 瀨谷 誠

《追悼》

白勢誠一君逝く

39回 福山 健

四月二十四日の我々の記念パーティに元氣よく挨拶していた白勢君が入院しているとのことで、五月下旬に吉田二郎君と二人でガンセンターに見舞に出かけた。

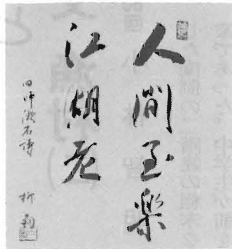
君はなかなか元氣よく、七月の同窓会にも出席したいと云っていたし、週に二回ぐらい入浴のため本町の自宅に帰るのどとのことで安心して別れた。

然し七月には退院できず、十月二日の母校の記念行事も無事終了したので、その報告も

夏目漱石の詩句

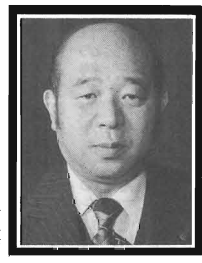
10回 小柳 篤二

最近私が発見した夏目漱石先生の詩の中に、いかにも漱石らしい発想の一句があるの



この詩は漱石先生が胃の手術後、修善寺で静養中、親友の朝日新聞記者池辺三山に送ったもので大変むつかしい内容である。

も残った。それから二十日後、十月二十六日白勢君は逝った。六十九才、病名は心不全。



十一月十日、西堀の超願寺での本葬は白勢商事、白勢合名の両社の社葬で、手広い取引関係と故人が檀徒総代であるため、京都の本山より導師が来新される等、盛儀を極め、

《追悼》

故阿部藤策君の思い出

28回 野村治三朗

本年七月末頃のことでしょうか。数年前川崎市に移られた阿部君が珍らしく夫婦で拙宅を訪門され、四方山の話に

花を咲かせて帰られたが、何時に変わらぬ元氣だった君の姿を見送った時、よもやこれが最後のお別れとなろうとは夢想だに出来ませんでした。

会葬者は堂に溢れた。三九会としては、皆川竹次郎、木村豊雄、吉田二郎、福山の四人が出席会葬した。次々と述べられる弔辞の中で、友人総代として起った安倍大祐君(40回卒、旭カーボン社長)の弔文は淡々として故人に語りかける口調で、永年の交友の真情にあふれるものだった。

あんなに健康そうであったのに..... 終戦後のシベリヤでの苦しい生活が初老の君の体に何か悪いのタネを残していたのだろうか。これからの仕上げの十年、突然の君の死が惜しまれてならない。

画人笠原軌と

その父 漁村(二)

60回 小林 智 明

漁村、ジンツアママの
紳名を奉らる

新潟中学校に着任した渡辺
装(ケイ)漁村先生は、どん
な風な先生であったか、同時
にまた、当時のわが新潟中学
校はどんな学校であり、どん
な様子であったのか、残され
たいいろいろな資料から思いを
めぐらしてみたい。それと、
当時新潟中学校三年生に在学
中であった十回生の小柳篤二
大先輩の寄せられた文を先ず
ここに紹介させていただきます。

○漁村は一児があり、長男轍
は色白く温順な性質で、次
男の軌とは余り似ていない
ようであった。同級には同
じ佐渡出身の野上俊夫のよ
うな飛び抜けた秀才も居た
し、保倉熊三郎のような級
長型(不確)の人物、金津
八一のような文学少年も居
たが、轍も彼等に次ぐ者で
あった。

(小柳篤二「漁村、屠龍
素描」より)

という訳で、当時三年生に
次男の軌が在学中であったの
で、そこへ赴任して来た漁村
先生は、軌のつあま、即ちジ
ンツアママと、たちまち紳名さ
れることになった。

また、小柳篤二氏より六年
後輩の十六回生の久保田謙二
氏は次のように述べられてい
る。

○住宅はたしか初めの頃は白
山浦だったが、後に学校町
二番町岡本小路の入口から
西へ二十米位の、通りに面

渡辺先生ジンツアママに関す
る逸話は余りに多く其れ丈
けでも一冊の単行本が出来
相だが、我々のクラスの時
の事は省き、我々の前後数
年間の内で僕の知っている
二・三を記してみる。

1 新潟中学には姓は渡辺で鬼
と申す漢文の先生が居る、
漢文と云ひ鬼といふからし
て厳格で恐い顔が想像さ
れる。或夜先生が街を散歩
して居ると悪太郎が後から
付けてくるのを知つてか否
か、赤い行燈に洒々「あめ
ゆ」と書いてある店に腰掛
けた。やがて先生は銀色の
長い髻を左右に分けて二杯
の「あめゆ」に舌鼓を打っ
て帰った。翌日直ちに其の
話が全校に広がつたらしく
先生の鹿爪らしい講義の最
中に教室のアツチの隅、コ
ツチの隅から「あめゆ、あ
めゆ」といふ声がある。そ
れが一時間や二時間でもなく
翌日も同じことだ、先生遂
に堪忍袋の緒を切つて「俺
れの錢で俺があめゆを飲む
のにどこが悪いッ!!」と怒
鳴つたといふ(明治卅八年
一月讀売新聞掲載)此の年
卒業謝恩会の席上先生は
「お前達は今日から酒を飲
んでもいいのだぞ、煙草を飲
んでもいいのだぞ」

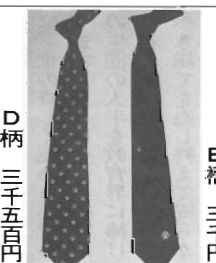
「先生ッノあめゆはどうで
す、あめゆは」
「モ……モ勿論!!」

2 先生は又見かけによらず耽
かしがり屋で、結婚式の時
に座敷へ出る事が出来ず屋
根の上に上られた。いざ式
となると大切の婿さんが見
えないので親族媒酌人等が
大騒ぎをして婿さんを探し
初めた。一方屋根の先生は
一旦は隠れたけれど其段々に
寂しくなつて座敷へ出たく
なつたが、今更ら下る事も
出来ず、誰れか迎へに来て
呉れればよいがと思ふが、
探す方ではまさか屋根の上
とは気が付かず、只ワイイ
と騒いでゐるだけだ。それ
が又屋根の上では判るのだ
が「俺は此処に居るぞ」と
も云へぬ。先生遂に一策を
案じて「雲耶山耶吳耶越」
と大声で詩吟をやつた。そ
れで漸く屋根の上に居る事
が知れて晴れの結婚式を挙
げられたといふ。此の結婚
ナンセンスを僕に教えてく
れた人はこれは嘘でないら
しい、それは此れを聞いて
から同級生会か何かの会合
にジンツアママが居ると其の
余興に誰れか「雲耶山耶」
の詩吟をやつて先生の顔を
見ていると先生は妙な顔を
して口をモググらせて、

「ウーム馬鹿奴が」とつぶ
やいてゐられた相である。
3 漢文の試験問題に毎年「寧
ろ雞口となるも牛後となる
勿れ」の解釈を出される。
随か東護君と聞いたが其答
案に「寧ろ小学校の校長と
なるも中学校の教員とな
る勿れ」と書いた相だ。先
生目をむき出して怒り「東
護の如きは豈我々中学校教
員を侮辱せしものに非ずや」
お蔭で他の問題が出来たの
であつたが三十点であつた

といふ。
(久保田謙二「回顧録」
県立新潟中学校創立五
十周年一六会記念号よ
り)

創立九十周年記念
校章入ネクタイ発売中
西陣ヤシロネックウエア製
正絹ネクタイ。それぞれ、紺
地とエンジ地の2配色2模様
残余若干ありますので、同窓
会事務局へお申込み下さい。



D柄 三千五百円
B柄 三千元

昭和56年度青山同窓会収支決算書 (昭和56年4月1日現在)

収入の部	科目	決算額	備考
繰越金	233,351	前年度繰越金	
入会金	910,600	1. 新入部員450人×300円=135,000円 2. 退部員147人×250円=36,750円 3. 退部員147人×100円=14,700円	
会費	3,150,000	同窓会年会費 1口 1,000円	
雑収入	18,083		
合計	4,312,034		

支出の部	科目	決算額	備考
人件費	2,018,564	職員1人給料手当、社会保険料	
通信費	555,085	会報発送、総会、役員会、新年会案内郵便料、振替料負担金	
印刷費	105,900	封筒、振替用紙、予算、決算、案内状印刷代	
庶務費	17,200	会員慶弔電報料、香華料、離任職員送別	
退職積立金	50,000		
諸費	8,770	消耗品費等	
会報印刷費	320,000	年2回発行会報印刷代	
会議費	161,668	総会、新年会、役員会、会議費、東京役員本部総会出席旅費、東京総会、支部総会出席旅費及び旅費	
卒業生記念品代	137,000	卒業生におくる湯のみ代	
青陵祭補助	80,000		
通信制補助	211,500	通信制同窓生会費納入者 1人500円 423人分 通信制同窓会へ補助金として送付	
予備費	50,000	東京同窓会補助金	
合計	3,716,487		

収支差引残高 595,547円
現金処分内訳
基金積立 300,000円
次年度繰越 295,547円
昭和57年5月24日
上記の通り相違無いことを確認致します。
福山 健
澤山 巖

昭和57年度青山同窓会収支予算書 (昭和57年4月1日現在)

収入の部	科目	予算額	備考
繰越金	290,000	前年度繰越金	
入会金	1,054,000	1. 新入部員450人×300円=135,000円 2. 退部員147人×250円=36,750円 3. 退部員147人×100円=14,700円	
会費	2,800,000	同窓会年会費 1口 1,000円	
雑収入	5,000	預金利子	
合計	4,149,000		

支出の部	科目	予算額	備考
人件費	2,000,000	職員1人給料、手当、社会保険料	
通信費	600,000	会報発送、総会、新年会、役員会案内郵便料、振替料負担金	
印刷費	100,000	封筒、振替用紙、予算、決算、案内状印刷代	
庶務費	50,000	会員慶弔電報料、香華料、離任職員送別	
退職積立金	50,000		
諸費	19,000	消耗品費等	
会報印刷費	370,000	年2回発行会報印刷代	
会議費	300,000	総会、新年会、役員会、会議費、東京総会、支部総会出席旅費及び旅費	
卒業生記念品代	160,000	卒業生におくる湯のみ代	
青陵祭補助	80,000		
通信制補助	200,000	通信制同窓生会費納入者 1口500円 400人分 通信制同窓会へ補助金として送付	
予備費	220,000		
合計	4,149,000		

以下次号につづく

志賀錦二郎君の二三

39回 福山 健

志賀錦二郎君の所在はいろいろと友達にも問い合わせたが不明だった。

十二年前、昭和46年10月の三九会を開く準備をしていた頃、念のため当時の泉の担当課に戦死者の原簿を照会してみたが該当は無かった。僕は同君と新中時代の交友関係はなく、卒業アルバムも紛失しているのと同君の顔は思い出せない。

所在不明の同期二十三名の中で僕が志賀君を特にマークしたのは彼だけが四年修業で陸士に入校していること、「錦二郎」というめづらしい名のためである。

昭和十二年度の同窓会卒業名簿には「陸軍中尉」となっていた。

十一月中旬に神戸在住の田中正一君（大阪造船船造船技師）よりハガキが届き、志賀君の住所と、彼と電話で話したことが、「口だけ達者で生きている」と返事があったことなどが知らされた。

僕はすぐ志賀君に発信、四月に発行した我々の記念誌回想五十二年一冊を同封した。

また「残念ながら貴兄の顔は思い出せない、僕は競技部で走り廻っていた福山だよ、これは贈呈する。折返し近況一報たのむ」と追記した。然し返信はなかった。「病気で入院でしているのかな」と氣にかけて乍らも十二月に入り返信のことは忘れていた。

十二月十六日彼から一封が届いた。大急ぎで開封してみると和文横打ちのタイプである。活字は新しい。「何んでまたタイプなど……」と不審に思いながら三枚の用紙にびつしりと打ち込まれたその全文を読み終えると僕の目頭は熱くなった。

彼は先づ「記念誌を手にして身ぶるいがするほど嬉しかった。」こと、「走っていた」僕の少年時代の顔はかすかに覚えていること。白線の旧制高校には入学できず、四年修業で陸士に入校し、陸軍士官の道を一筋に突き進み敗戦となり、九州に帰農して十年、更に陸上自衛隊に入隊して十四年、次いで民間の小企業に就職したが労務問題の処理に失敗し、北海道に移籍定住、旧

友のすすめ、茨城県石岡の現在職に責任者となって約十三年間働いていること、家族とは別居していること、五十才より脊骨や頸骨の難病にかかり、半年間の入院を三回、四肢が利かなくなつたが、素人でも出来る横打ち和文のタイプを練習中で、この返信も休みながら時間をかけて打つたこと、末尾の日付には「十一月三十日（十二月十三日）」となつていた。文章はよく意を表わし、格調高く、活字は正確である。しびれる両手を休めながら、苦勞して二週間もかけてこのタイプを打つたのだ。

僕はこの約二十年間、三九会のことで多くの同期同友と交信したが、こんな有難い返事を貰つたことはない。繰り返し、繰り返し、読みつづけた。志賀君、戦後の御苦勞は大変だつたらう。だがよく生きていてくれた。どうか体の不自由にならず頑張っていてくれ。

最近の僕の写真は送つた。折返し同君の写真が届くのを待っている。（昭57.12.20記）

追記 志賀錦二郎君の住所
〒茨城県石岡市柏原十八一
東京紙管株式会社工場
三九会同期の諸兄、志賀君を元気づけてやって下さい。

青山波柿会例会

38回 近藤 圓

復活第六回波柿会例会（寄宿舍同人）を恒例により、十月第一日曜の三日正午、昨年と同じ小甚旅館で開催した。前日は母校九十周年式典で、二日続きは如何かと思えたが、かえつて出易い人もあろうかと定日開催とした。

出席十六名、初参加の33回植浦貞雄さんも弥彦から元気な姿を見せられ、皆を喜ばせて下さつた。話は例により寄宿舍生活から恩師の懐旧談に花が咲く。

談たまたま斎藤シャモ教官

の話になるや、相模原から駆けつけた35回近藤百之兄、どこから入手したものか、シャモが横越の建部遊吾博士に宛てたはがきのコピーを一同に配布、舎監として格別お世話になつたシャモの、なつかしい肩下りの筆蹟に一段と話もはずんだ。また近頃我々の「ぶがき」を僭称する歌手グループが活躍しているが……との件が提出されたが黙認してやろうと一決した。

少年時に寝食を共にした仲間間は五十年たつても、やっぱ



りヤンチャ坊主の昔に帰るもので話も尽きなかつたが三時、来年の十月第一日曜を約して散会した。写真代りの似顔絵は近藤百之兄の作。

出席者、写真（前列）右より武田、小山、小柳、倉田、今成、渋谷（中列右より）内田、沢山、古川、須藤、寺田、（後列右より）石本、近藤、相馬、松岡、中山、中村

第三十五回 クラス会

母校九十周年記念を祝して、十月二日クラス会を開きまし



三三健児

ここに在り

母校創立九十周年を記念して、佐野幹事長から召集がかかった。

二年生の時、「緑もぞ濃き青山に、年ふりここに三十年」と歌った三三会は大正十五年の卒業、爾來時は流れて五十七年である。

新涼九月二十五日、「大直」に集まる者十九名、六年振りの顔合せとあって懐旧談に花を咲かせた。もうこれ以上変りようがないところまで来て



いるが、前回の出席者で鬼籍に入った者も数名、まさに歳々々々人不同である。校歌「玲瓏の天」、凱旋歌「強者等」を合唱すれば、老童の五体に不思議やよみがえる青春の血潮。三三会は毎年でもよし、召集は幹事長一任ただし百周年には必ずみな集まる事を堅く約して万歳を唱え、めでたし、めでたし(永井 記)

写真向って右より(前列)永井、磯野、山田、佐藤、山添、福山、(中列)大阪、平岩、佐野、清水、三沢、樋浦(後列)中島、木村、田辺、相馬、星、佐々木、明間、

水上温泉で

青山三八会開催

毎年一回は開かれていた東京在住と新潟在住合同の青山三八会が今年は10月17日18日一泊二日で水上温泉で開催された。

今年の当番幹事は新潟が安達、田村、杉垣、東京が高野、石田の諸氏である。先ず新潟の幹事会で期と会場を決定してその由を東京の幹事に連絡して了承してもらってから会友諸氏に参加を呼びかける。これは今までの前例どおりである。今年には新潟の当番の一人、田村氏が職業がら、旅館には極めて明るく、顔がきくことが大きく幸いした。そして、水上温泉のホテル水上館を会場として抑えることができた。

10月17日夕刻までに各自思い思いに水上館へ集合した。新潟勢十四名東京勢八名、計二十二名であった。数は今までの合同会より少なかったけれども、会は大いに盛り上がり期待された。

さて二十二名を四つの部屋に割り当てて一旦落ちついてから水上温泉でも有名な水上館の大浴場水晶風呂につかっ

始まった。

新潟の当番幹事杉垣の開会のことばに続き、三八会常任幹事渡辺氏より会務報告があったが、今年になって物故された会友の名を聞いた時は皆が一時シユンとなったようだ。つぎに全員で、今までに物故された会友の御冥福を祈って一分間の黙祷をしてから、東京側幹事高野氏の乾杯の音頭で開宴となった。その冒頭新潟県立新潟高等学校創立九十年記念式典、祝賀会のこと

が話題になり、新潟勢より交々、立派な式典、盛大であった祝賀会の様子が報告された。その折、山口氏が新潟より重さをいとわず携えて来た「青春の森」の有料頒布が行われ、またたく間に無くなってしまう。また新潟市体育館で行われた九十周年記念祝賀会の際に記念販売されたネクタイを青山三八会の某氏が購入し寄贈あつた三本の配分が東京勢に抽せんで行われ、拍手のうち山口氏から手渡された。

その後、恒例の写真撮影があつた。その様子は写真の通りである。酒の廻りがあり深くならないうちに来年

の三八会は東京の石田氏、高野氏の肝入りで千葉県の海岸で魚の網元の家(石田氏の勤務している高等学校の理事長所有の家)で開いたらという提案があり皆大賛成で決定された。

その後東京の神田氏の渋いけれどもすばらしい長持歌の披露があり喝采を博し、これにこたえて新潟の近藤氏より安来節の披露があり、皆をうならせた。田巻氏も負けじと岩室甚句なども飛び出してまことに愉快であつたが、この間に常任幹事の渡辺氏の苦勞して記録しつづけて来た同窓会記録が回覧された。読む者皆襟を正す貴重な記録である。これにより、東京勢より会友名簿を是非送ってほしいという熱望が出され渡辺氏も了承コピーを送ることを約束された。

最後はこれも恒例の新中応援歌校歌の斉唱、五十一年も経過していても、歌詞を忘れることもなく全員が元氣一杯腹から声高らかにうたい合つた。そして万歳三唱し来年再び元気で会おうと約束し合つて部屋へ引き上げたが、健康を維持するにはこういう会に出て会友と顔を合わせて談笑することがいかに大切なことを痛感するのである。

なお部屋に引き上げた後でも東京の河内氏のスイスアルプス山脈登山の大パノラマ写真を拝見することが出来たり、神田氏より書道に志して今練習中とかの話を拝聴したり、人生死ぬまでは修養也の感を深くした。

翌朝、再び全員で顔を合わせて朝食をしたため、食終えて各自が身仕度を整えて東京新潟へと袂を分つた次第である。

来年の千葉での再会を今から楽しく待ち受けているのである。(杉垣 記)

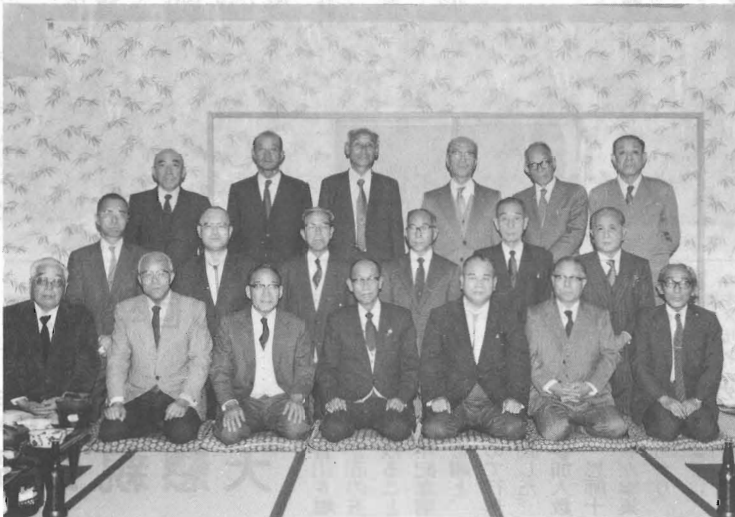
写真(前列右より)成田、田村、杉垣、笹川、田巻、近藤、関、河内、(中列)渡辺、山口、石黒、国山、藤宮、田中、高野、沢野、石田(後列)安達、神田、後藤、山田、高橋



42回 年次例会

我々の年次例会は、最近安定軌道に乗り開催されている。これもお互いの色々な経験と善意がもたらした結果だと思ふ。先ず中野、菊地、福田三君を常任幹事に押し込め奉り、連絡事務所は福田石材限の社長室、次いで会場は会員の篠田旅館である。開催期日は十一月の第二土曜日。これでは開催案内状も不要な位なのに、懇切丁寧なものを戴く。今年も十一月十三日夜に開催された。ところが出席者は僅か十九人。例年なら二十五人以上なのに不景気の故か、それとも六十五才と云う年齢から生じた因果なのか。丁を始め県外勢の総崩れや、市内御常連の欠席に一寸驚いた。そんな訳で珍らしく柏崎のSが遠来唯一人の客として乾杯の音頭をとった。何時ものことだが、この会にセレモニイは無い。乾杯で喉をうるおすと、後は御自由にと云うことになる。ところで我々の大多数はサラリーマン稼いだったが、よわい六十五ともなれば、会社オーナーの関連者でもない限り、第二の人生、又第三の職業にしても、そろそろ

写真説明(前列左から) 福田、岡、本宮、重田、高山、薄田、鈴木、長谷川、篠田、西山、(後列)今井、藤田、北村、石本、(中列)阿部、神林、菊地、広沢、豊岡



リオドを打たざるを得ぬ時期に来ている。正に老人層のメソッドである。曾て紅顔の名ピッチャーも、今はソフト帽を愛用し、ニキビ面でセーラーズボンのSの顔には、福田黄門の如き大きなシミが現われている。ともあれ我等酒を飲み、酒我等を飲む。そして又、天なり命なりで、その夜の話題の

トップは「健康」と云うよりは「病氣」。

五、六年前までは、それでもゴルフ、マジジャン、浮寝鳥と纏っていたのに……。

それに引き換え今夜の様、先ずは斯くの如くに御座候。数年前に胃を失ったSは、「おさと沢市ではないが、傍に女房が居ないと何所へも行けない。」と。今年の夏に胃のポリプ

をローレモローレモと取らせたいO曰く、「水割りは冷たくて胃に悪いが、ぬる爛なら」とか。一方ショートピースを長年愛煙してきたヘビースモーカーのFは、現代医学の無力を叱る。「フグは食いたし命は惜しい」の伝らしい。はては又開業医でありながら、アルコール愛用にドクターストップを命ぜられたK。

第二の演目は、この年令で八十才以上の親御を抱えている孝行息子の物語り。しかしこれ許りは、いやこれも経験者でなければ分からない難問。世界に冠たる長寿国の譽れを光りとするならば、我等の世代はその陰でひしめく黒子の役である。戦争でお互い大痛手を受けたが、これは既に昔の話。親を看とり、次に看取られると云う事は目前の関門である。

はてさて、こんな話が酒の肴では、不味くて酒等飲めない筈なのに、一座は侃侃諤諤呵呵大笑して杯をほしている。これがこの会の功德、効能らしい。年に一回集まって、なり振りかまわず飲んで喋る。亭主も女房と同じで、こぼせばさっぱりすると云う事になるのか。それとも又、みんな達者であるからだ。病気の料者でもまずまずの健康、み

んな幸せ。

「アオヤマ、アオヤマアオヤマ」でお開きになったが、バーやキャバレーへ流れる者は無かつたようだ。

此の秋は何で年寄る雲に烏

(鈴木一男 記)

48期会恒例の懇親会は11月13日(土)夜6時から新潟市の小甚旅館新館で開催されました。

毎秋、新潟市近郊の温泉に泊まり、文字通り裸のつき合いでゆつくりと旧交を温めるのが慣行ですが、たまに新潟市内で日帰りのつどいをという声もあつて、今回は手軽にしました。

集まったメンバーは30人。横浜の小林好岳君は卒業以来戦後初の参加。ちよと帰りに上越新幹線第一号に乗る日程を組み、勇んでの出席。富山の吉沢宏英君も3年ぶりだ。総勢30の大会にのつたのは、ここ数年なかったことだし、会場の大広間は同期の近藤源資君の不工務店の新築とあつて、満場の気勢は大いに揚

卒業以来40年、還暦に近づいたせいとか、この一年に本田浩、勝又襄、宮崎敏郎の三君が相次いで他界され、大塚進弥幹事長の音頭で謹んで黙祷



輪をつくり、これがまた入れ替わり立ち替わりしてのルーズスクラムぶり。「あのとき、君はこうだった」「いや、君こそあつた、こうだ」と罪のない暴露ばなしの連続に広間も沸き返るさわぎ。誰れもが日頃の分別臭を脱し、紅願の昔に戻って友情を固め合つた。最後はこれ又恒例の各部對抗の応援歌合戦。大橋明自、阿部慶二両君のエッサツサ、オットット、で始まつた。出色は久方ぶりに分水町から遠来の神原寛君の柔道部代表で歌を忘れた途中から突序、拍手の音頭取りに約変、三三七柏手のリーダーを熱演すれば、負けじと角力部の鶴巻俊介君、掛け声も野太く四肢を踏み、脇をしつかと固めたスリ足の寄り身を披露するなど、次々と若さを競い合い夜の更けるのも忘れる始末でした。

なお、懇親会に先立つ麻雀会では鶴巻俊介君が初優勝しました。(都築 記)

を捧げた。ここ数年は欠ける友がなく、息災を喜び合つていただけに感慨深く、続いて行なわれた近況報告の3分スピーチでも、三君の思い出話に花が咲いた。

宴に入り、ひとしきり献酬のあと、座は自然と幾つかの





60回卒MUZO会 ムゾー 卒業30周年記念 大懇親会開催

六年間も居座つた青山を離れて三十年になり、立志の五十才を前に思い出に残ることをやろうと、九十周年記念第二体育館に大時計の寄贈と、例年の一泊会合を止めて行形亭での豪華宴会を計画した。

十一月二十七日、参加人数の心配も杞憂に終り、思師十二方、各地より百余名が参集。美人の奥方同伴の者もあり、新潟芸妓の手踊りもよそに、「オメサン、ダレラネ？」と尋ねる者、突然と熟年顔を見合ふ者、今頃になって先生にゴマをする者。イタリヤ軒に二次会場を移しても話は尽きず、遠來者の宿五泉屋が玄関を閉めたのは午前三時という有様。不参加者が酒代を多額に送ってくるのも六十回卒の素晴らしきで幹事一同大感激。胸颯爽の意気に充ちたMUZO会万才！ (小林 亨)

九十周年を記念して十年振りに作成された「会員名簿」と、記念式典に出席された方々に配布された「青山九十年年表」の残が若干あります。希望の方は事務局へお申し込み下さい。名簿は送料共二千五百円、年表は無料(送料百七十円)

『名簿と年表』 《事務局》

編集後記

あけましておめでとうございませう。昨年は不況の中ではありませんでしたが、九十周年記念式典に向けて会員の熱意が結集せられ募金も大巾に目標を越える事ができ、ごらんのよう盛大な式典、音楽会、講演会と順次行われました。その報告が多くなりました。

◎ 初回同窓校長として、又退職後も副会長として同窓会

発展につくされた、阿部藤策氏、新潟経済界の重鎮として数々の業績を残された白勢誠一氏、ご両名の追悼記、心からご冥福をお祈り致します。

◎ 10回小柳氏の色紙については同氏より60回小林智明氏に送られて来た色紙と文を転載させていただきます。

◎ 小林氏の連載著作「漁村」(二)まだ続きます。

◎ 今後の発展をお楽しみ下さい。新年号には毎年秋口に行われたクラス会の報告が多く

寄せられます。懐かしい顔をこらして下さい。

◎ 今号より、活字の大きさを少し変えてみました。最近各新聞も大きくなったので、会報もそれにならってみました。少しは読み易くなりました。どうか。

◎ 今後とも会報の発行にご協力、ご寄稿下さる様お待ち申し上げます。写真を送って短か目に願います。(石田)

昭和57年度 現役諸君活躍の記録

(運動部の県大会とそれ以上の大会の結果)

部	県 大 会	(県 大 会 以 上)
バスケットボール	(男) ベスト8 (女) 2回戦敗退	
柔 道	(団体) 5-7 柳尾、0-2 高田工 (個人) 重 量 級 小倉 3回戦 中 量 級 熊木 3回戦 錦木 2回戦	(BSN大会) (個人) 重 量 級 小倉 優勝 軽 量 級 中 量 級 錦木 3回戦 上 量 級 佐藤 3回戦 《全国高校柔道選手権大会新潟県大会》 優勝 2回戦 本校 ○(大将戦) 加茂 亀林 3回戦 ○(2人残し) 新潟工 準決勝 ○(大将戦) 新発田 決 勝 ○(大将戦) 高志 2月6日、北信越大会出場(金沢市)
レスリング	(個人) 70kg級優勝 インターハイ出場	《全国選抜大会》(個人) 70kg級 和 田 烈 吾 ベスト8
フェンシング	《県高校総体》 (個人) 第2位 八 木 伸 夫、第4位 高橋 味輝 (個人) 第2位 井 上 圭 子 (個人) 第3位 田 中 圭 子 (個人) 第4位 高 橋 利 香	《全国高校総体、インターハイ出場》 (個人) 女子フルーレ 川 上 翠 子 1回戦で敗退 《北信越高校総体》 (男)個人 フルーレ 第2位 八 木 伸 夫 (女)個人 フルーレ 第4位 田 中 圭 子 《ニ国体(福井)》 新潟県少年女子選手メンバー出場 寺 井 直 子 } 第2位 前 川 茶 津 }
フルーレ(男子)	《秋季県大会》 (個人) 第4位 金 子 健 蔵 (個人) 第1位 寺 井 直 子 (個人) 第3位 岡 田 朋 子 (個人) 第4位 前 川 茶 津	
フルーレ(女子)		
バレーボール	(男) ベスト8	
卓 球	《県高校総体》 梶 信 一 郎 1回戦敗退 《秋季県大会》 藤 崎 徹 1回戦敗退 横 村 昭 渡 部 智 子	
水 泳	波田野茂男 100米平泳 2位 200米平泳 4位 山 田 賢 一 100米自由形 4位 200米自由形 4位 波田野・高見・近藤・山田 400米リレー 4位 800米リレー 5位 中 沢 智 子 100米自由形 3位 200米自由形 2位 村 山 薫 200米個人メドレー 5位 400米個人メドレー 3位	《北信越大会》 中 沢 智 子 200米自由形 8位 村 山 薫 400米個人メドレー 6位 波田野茂男 200米平泳 2位 山 田 賢 一 100米平泳 2位 山 田 高 見・波田野・近藤 400米リレー 5位 800米リレー 8位 《全国大会・インターハイ》 波田野茂男 100米平泳 予選3位
硬 庭	《県 総 体》 (シングルス) 上 野 伸 二 ベスト8 鹿 嶋 史 ベスト8 (ダブルス) 上 野・関根 ベスト4	
サ ッ カ ー	《県 総 体》 ベスト8	
野 球	《第66回(春季)北信越高等学校野球大会》 新潟県大会優勝	
ラ グ ビ ー	《春の県大会》 4位	
軟 球	県高校総体 坂内・高橋、宇橋・甲、藤崎・大滝 4回戦 佐藤松本 藤藤・伊藤 3回戦、本村・三浦 2回戦	
ボ ー ト	男子ナックルフォア 3位 (秋季) 男子シングルスカル 2位(白石 薫)	
剣 道	(男子団体) ベスト8 (女子団体) 2位 (個人) 男子1位(巖 雄大) (個人) 女子1位(高橋麻理子)	《北信越大会》(男子個人) 優秀選手 巖 雄 大 (女子個人) 1 高橋麻理子 《全国大会》(男子個人) 巖 雄 大 (1回戦) (女子個人) 高橋麻理子 (3回戦)
陸 上 競 技	110JH 5位 武内和宏 6位 市川浩介 走巾跳 2位 白川正登 女子400m 4位 森田 郁子 800m 5位 椎 森 直 美 《県高校選抜陸上》 100m 5位 赤 村 光 恒 800m 2位 山 本 啓 志 400mハードル 6位 武内和宏 3000m障害 5位 佐々木 匡 走巾跳 2位 白川正登 1600m R 3位 (赤村・白川・武内・山本) 女子800m 2位 椎 森 直 美	

昭和57年度青山同窓会費納入者

(4月より12月25日まで納入済のもの)

未納の方は3月までに納入下さるようお願い致します。

(郵便振替口座 新潟5-4455青山同窓会)
(第四銀行学校町支店口座 275210青山同窓会)

会費納入のお願い

年会費 1口 1,000円

できるだけ1人2口で
おねがいします。

納入先 新年会・総会の会場
又は母校同窓会事務局へ

Table with 10 columns labeled '期及氏名' (Date and Name). Each column contains a list of names and their corresponding contribution amounts or dates, organized in a grid format.

